



学校だより

とき・あかし錦城

2021年(令和3年)

12月10日(第80号)改訂版

明石市立錦城中学校

あいさつ

校長 谷郷昌弘

新型コロナウイルス感染症(このごろはこの単語ばかりですね)がやや落ち着きを見せたうちに、なんとか文化発表会、修学旅行、生徒会選挙と大きな行事を無事終えることができました。

そうこうしているうちに2学期も終わりを迎え、1年のまとめをする時期が来て、時の流れの速さに驚いています。周りの自然も、気が付けばすっかり冬の装いとなりましたが、現実には自然を感じる心の余裕もなく、毎日が慌ただしく過ぎていきます。

特に3年生の皆さんにとっては正念場を迎えます。懇談会では目指す進路を固めましょう。心を決めたらあとは真直ぐな気持ちで努力するだけです。

先日、錦城中学校区の学校運営協議会が開かれました。幼小中が共通で取り組むことの中で、「あいさつ」がクローズアップされ、今以上にあいさつを盛んにするにはどうすればよいだろうと話し合いました。

どの校園でも園児児童生徒のみなさんはよくあいさつをしてくれます。特に朝のあいさつはしっかりできています。でも、よく知らない人に対してはどうでしょうか。ときどき見かける訪問客の方にも同じようにあいさつできていますか？

なじみのない人にしっかりあいさつするのは、実は難しいことなのかもしれません。しかし、学校に来られる方は当然学校に関係のある方であり、つまりは生徒の皆さんにも関係のある方です。自分のお家に来られているお客さんを知らなくても、やはりあいさつはしますね。同じことです。

とは言うものの、最近は大人があいさつをしなくなっており、子どもたちに対して恥ずかしい限りです。私たち大人も「子どもにさせる」前に「自分が進んでする」意識を持たねばなりません。

たかがあいさつ、されどあいさつです。「こどもは親の言うとおりにしない。親のするとおりにする。」自戒すべきことです。

蓬萊大介さんを迎えて

12月8日(水)に、気象予報士の蓬萊大介さんを講師にお招きして、「創造力育成講座」を開きました。寒い中の講演ではありましたが、1年生から3年生までみんな真剣にお話をうかがっていました。

お天気についてのお話しは、もちろん興味深かったのですが、それ以上に心に残ったのは蓬萊さんの「生き方」でした。もともと違う夢があり、「〇歳までは夢をかなえるためにがんばろう」と苦勞しながら努力されたそうです。しかし、思うようには芽が出ない。普通の人なら自暴自棄になっても不思議ではないのですが、蓬萊さんは「自分の興味に素直に従って」違う目標を掲げ新たな努力を始めました。気象予報士の資格をとったのは27歳とのこと。人生山あり谷ありなのです。

今の姿になるまでは、人に言えない苦勞もたくさんあったことと思いますが、それを感じさせず、さらっと「自分の興味に従ってがんばろう」と言える姿がとってもカッコ良かったです。



冬来たりなば春遠からじ

用務員さんと第75回生徒会執行部のみなさん、のぞみ学級とくるみ学級のみなさんで中庭花壇のお花の植え替えをしてくれました。

寒い冬を耐えてこそ、美しい花が咲くのですね。自然は強い。人間はまだまだ見習わねばなりません。

でも、「言うは易し」で…

